

特集

インターネット依存の現在

特集にあたって

樋口 進*

IT技術の急速な進歩に伴い、インターネット(以下、ネット)依存は、爆発的に広がっていると推測されている。また、この問題は青少年でより深刻であることが知られている。我々が厚生労働科学研究の一環として2012年に全国約10万人の中高生に対して行った調査によると、男子生徒の6.2%、女子の9.8%の者にネット依存が強く疑われ、その数は約52万人と推計された。また、別の厚生労働科学研究調査によると、2008年から2013年の5年間に、成人でネット依存傾向にある者の数は1.5倍に膨れあがり、後者における推計値は420万にも及んだ。

実際の臨床場面でも若者の受診が多く、私どもの専門外来では、中高生だけで全体の50%を、また、大学生まで加えると全体の70%を占めている。最も依存しているネットサービスは、依然としてオンラインゲームであるが、最近、スマートフォンのさまざまなサービスにはまっている者が増えてきている。ネット依存の学業、家庭内関係、健康などへの影響が大きく、遅刻、欠席、成績低下が多くの人にみられ、不登校、留年、退学、転校も少なからず認められる。また、ネット使用について親に対する暴言・暴力はほぼ全例にみられ、昼夜逆転、引きこもりなども稀ではない。さらに、犯罪につながるケースも認められる。合併精神障害を有する患者も一定の割合で認められ、

ADHD、自閉症スペクトラム障害、社交不安などの合併頻度が高い。

ネット依存の自然史に関する研究はほとんどない。しかし、筆者の臨床的経験では、ネット依存が自然寛解するケースは少ないように思う。中高生からゲームにはまり、数年後も全く同じことをしている若者も多い。一方、ネット依存のために引きこもりを何年も続けているケースやニートとなっている者もみられる。ネット依存の最も深刻な点は、若者の将来を奪いとることにあると思われる。

ネット過剰使用に伴う問題は、極めて多くの分野に関係している。しかし、総じてネット依存に対する対策は遅々として進んでいない。医療分野も例外ではない。ネット依存の概念形成や治療法の開発などに関する研究はまだ緒についたばかりである。また、ネット依存診療に対応できる施設数は少しずつ増えているが、その数や地域はきわめて限られている。

本特集では、このネット依存に関する現状と対策に関して、特に医療面を中心に多くの先生方に玉稿を依頼した。そのために、ネット依存を多面的に捉えた特集となった。本特集が深刻化するネット依存に関する現状を多くの先生方に知っていただき、この分野の予防や治療の進歩に貢献できることを願う。

* 独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター (☎ 239-0841 神奈川県横須賀市野比5-3-1), Higuchi Susumu: National Hospital Organization Kurihama Medical and Addiction Center, Yokosuka, Japan